



No.10 2014-7 発行

## 「下肢静脈瘤に対する高周波アブレーションカテーテル治療」の紹介

血管外科 教授 四方 裕夫

下肢静脈瘤に対する血管内治療に用いる高周波治療装置が厚生労働省より認可され、手術手技も2014年6月に保険収載（下肢静脈瘤血管内焼灼術）されました。大伏在静脈の逆流による下肢静脈瘤は、鼠径部を切開して大伏在静脈を抜去するストリッピング術が主に施行されてきました。

高周波アブレーションカテーテル治療（radiofrequency ablation; RFA）は鼠径部を切開することなく、大伏在静脈内にカテーテルを穿刺挿入してカテーテル先端にある長さ7cmのコイルエレメント部分に高周波エネルギーを送って発熱させ、血管壁を過熱してコラーゲン変性を起こして血管を収縮して閉塞させることで血流を遮断します。静脈血の逆流を遮断することで下腿静脈瘤内への血液貯留や鬱血による諸症状の緩和を目的としています。

2011年には、同様に血管を収縮させる980nm波長レーザーを用いた血管内治療が認可され、ストリッピング術にかわる治療方法として施術が行われていますが、欧米の研究論文や自験例でもRFAは、術後疼痛と治療部位の皮下出血において良好な結果を認めており、より一層の低侵襲的治療法であると考えております。当科では、2004年からRFAによる治療の研究を開始し、2006年から施行された国内治験に参加しました。ストリッピング術との比較ですが、治療効果は遜色なく、皮下出血の低減を認めていることから、抗血小板療法や抗凝固療法を施行中の患者さんにも提供できる治療方法と考えております（皮下出血はある程度ですが出現すると想定されます）。

治療を希望される患者さんには、当院血管外科を受診していただきまして、下肢静脈瘤に対する超音波検査を施行しまして、施術可能であるかどうかを判断したうえで、詳細な内容をご説明申し上げます。

初診外来は毎週火・木・金・土曜日となります。

血管外科担当医；四方裕夫教授、小畑貴司講師、野口康久講師

（問い合わせ先）

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学一丁目一番地

TEL 076-218-8219 FAX 0120-076-286

金沢医科大学病院

地域医療連携事務課

regional@kanazawa-med.ac.jp

Kanazawa Medical University Hospital